



東九州支部報

第101号

公益社団法人日本山岳会東九州支部

2023年4月25日(土)発行



4月月例山行 矢筈岳(姫島) 2023. 4.16

も く じ			
1. 支部行事		こごごぎ倶楽部 元越山の子午線標探索	11
令和5年度の挨拶	2	こごごぎ倶楽部 佐伯大島の三角点山頂踏査	12
2月月例山行 両小山	2	こごごぎ倶楽部 白杵市街地外れの里山歩き	13
令和5年2回目の研修山行(ロープワーク)	3	六甲山行	14
役員研修山行 「危険な岩がちの山を登る時の安全確保技術の習得」	3	緊急投稿 姫島矢筈岳事故の反省	16
支部研修「小表山西稜線を登り鷹巣岳西稜線を下る」	4	こごごぎ倶楽部	16
3月月例山行 樅木山 シニアトレッキング	5	『カラピナの寿命』	17
4月月例山行 矢筈岳	6	第3回安部個人研修	17
2. 個人投稿		登山会報リバイバル 第3回東支部別府湾別府リレー登山	18
ペンリレー 第46回	8	3. 支部からの報告	
より安全な登山のために No49	9	会務報告	20
私の無名山ガイドブック No88	10	編集後記	22

1. 支部行事

令和5年度の挨拶 (会員 9193 安東桂三)

政府は、本年の5月8日より、新型コロナウイルス感染症を「2類相当」の扱いから「5類」に引き下げることとした。本支部報が発行される頃は、コロナ対策も個人の自覚による対策となる。3年にわたる制限は撤廃され、自由に山に行けるようになったが、この3年間、支部のメンバーは等しく歳を重ねた。そのことを自覚し、山に登って欲しい。3年ほどの期間を取り戻すために、各メンバーがトレーニングし、復活。あるいは、3年を振り返り、自分の能力にあった登山に努める。あるいは、新たな目標をつくり、それに邁進する。

いずれにしても、じっくり考えて、行動を起こす時が来た。さあ、登ろう。

本年の8月5日には、「九州5支部集会」(5支部懇談会)を当支部担当で開催する予定。平成25年の全国支部長会の会場で、九州5支部長が会議の結果、九州5支部集会(5支部懇談会)を開催すると決め、平成27年は宮崎支部、平成29年度は北九州支部と開催し、平成31年度に東九州で開催となっていたが、当支部の都合、コロナ禍などで、開催出来ずに過ぎていた。

九州5支部集会は、九州の各支部の繁栄と交流が目的と思う。各支部のメンバーが集まり、支部活動の多くのことを相談し、解決する良い場と思う。多くのメンバーに参加をお願いしたい。

8月5日と言えば、昭和35年8月5日、別府市のレストラン「スワン」において日本山岳会大分支部設立総会が開催された日で、当支部の誕生日となる。支部長 永井清一、副支部長 野口秋人、顧問 工藤元平、加藤数功、溝口岳人と決まった。東九州支部の歴史にも思いをさせ、将来のことも考えたい。

2 月月例山行 両小山 (720.6m)

2023年2月19日(日)
(会員 13997 中野 稔)

国東半島の中心に当たる。北の方に文珠山、千燈岳。東には大嶽山。東北方向には小門山。南には両子寺、走水観

音、両子トンネル。西方向には、屋山がある。月例登山では3度ほど登っている。このルートは4回目になるのだが、記憶に残っているのは、山頂の展望台があった位だ。下見にも2度行ったのは、危険個所の下見の為だ。鋸山や津波戸山では、滑落等で死者が出ていると聞く。参加者の安全を最優先に、ルートを決めた。

大分からは、小一時間の距離である。30年前は、90分以上掛かったものだ。参加者の中には、有難い事に登山教室から5名の有志が来てくれた。80歳以上の参加者もいる。雨の予想でキャンセルした方は、当日だけで4名もいた。集合時間には、23名になったが、30分掛けて説明と体操で、定刻の8時に山門を潜り入山料を払った。

岩場で怖いところは、観光コースになっている、最初の鬼の背割り迄と読んでいた。なるべくユックリと両子寺奥の院で入念に祈願するようにわざと時間を掛けさせた。小雨で滑りやすいと思った岩場は、意外とグリップが効いていて、ロープが張っている粘土質の急坂では案の定滑った。佐藤さん鹿島さん丹生さんは、不安そうな人たちを積極的にサポートして頂いて心強かった。

2度目のロープ場は約25m位で、残置ロープが心許ないと読んだ、佐藤さんが一人づつと指令を出し、鹿島さんや丹生さんは、右手の尾根を迂回するルートを選んだ。このルートで一番危険な場所であるが只四つん這いで登れば、問題はない。

10時頃山頂から見て、南東尾根に出る。全員の安全などを確認して、山頂を目指す。山頂の展望台で集合写真を撮り、車道を下れば両子寺へ安全に行けるので、10名はトンガリ山分岐にて別れた。13名は西両子山からトンガリ山を目指す。雨よりも風が強かった。



トンガリ山は思ったより、滑らなく安心して下山できた。600mピークは晴れていたら展望があるのだが残念。12時半ごろ、林道に安部先生が来ていた。挨拶をして走水観音へ林道から歩き辛い登山道を下る。1時過ぎに駐車場に着く。悪天候の中の登山は、沢山の事を教えてくれる。歩き方、ストックの使い方、装備の重要性、タイムリーな声掛け等である。

登山教室から参加された方達には、ご苦労様でした。

<コースタイム> 駐車場 8:00 ~ 山頂 10:30
車道別れ 10:40 ~ とんがり山 11:40 ~ 駐車場 12:40
参加者

佐藤、古谷、阿南、鹿島、丹生、下川、平原、
宮原、中野(稔)、中野(梨絵)、久知良、今川、河津、
宮本、賀来、諸田、飛高、松内、上橋、濱崎、興梠、
皿山、山田、安部

令和5年二回目の研修山行 「ロープワーク」

2023年2月12日(日)

場所: 鬼ノ洞 地図(宮ノ尾: 八方ヶ岳)

(会員 15463 櫻井依里)

はじめに日本山岳会東九州支部の大半の方はロープワークやアイゼン等を必要とする登山をされていないと思います。何故なのでしょう。その辺りを再度認識され安東支部長が実施されている山行や研修に思いを巡らせながら本研修登山の報告書を一読頂ければと思います。

令和5年2月12日(日)9時道の駅鯛生金山駐車場に16名が集合、安東支部長より山行時のマナーや注意事項等の話の後、本日の研修登山の行程と大まかな説明があり、装備の確認とロープの選別を行い、県道9号を宿ヶ峰尾峠を經由し内田林道登山口まで移動した。

パーティーを三班に分け安東支部長が総指揮を取ることとし各班は各自のペースで登山開始を始める。鬼ノ洞一の門まではヤブコギでその後はガレ場の沢を登り鬼ノ洞二の門に11時30分頃に着く標高980m程度であるが足場は悪くかなり疲れた。

鬼ノ洞は一の門も二の門も不思議な地形(岩肌に背丈ほどの穴が開いており)をし激しい傾斜であるが面白い。

昼食後、本日の目的である懸垂下降を始める20m弱(添付写真)を二班に分かれ実施する、初めての方もいましたが結構要領良く40分程度で下降を終了した。

下山はひたすらガレ場の沢を降り鯛生金山まで移動し駐車場にてロープワークの説明が行われ3時30分散散した。

個人的感想であるが山行中、笑い声や雑談をあまり耳にすることがなかった。和気あいあいを楽しみにしている方はちょっと雰囲気が違うと思われるかもしれません。

ただロープワークに関しては登山者としてはやむを得ず使用しなければならない状況に陥る事は想定されるし他の遭難者の救助しなければならない場面に遭遇することも考えられるので習得した方が良いことではあるとは思っています。

ます。

技術の向上や沢登り雪山を体験したい方は年齢に関係なく参加されてはと思います。(皆さんが思うほどレベルの差はないので気軽に参加してみても如何でしょうか)

最後に集中力が切れた時、事故が起きる可能性は高いので保険加入は必須です。

参加者 リーダー 安東・中野(稔)・田所・下川・櫻井・佐藤(裕)・笠井・中野(梨)・橋本桂・生野・上野・佐藤(美)・川村(寅)・丹生・久知良・佐藤



役員研修山行

「危険な岩がちの山を登る時の安全確保技術の習得」

2023年3月5日(日)

場所: 国見町 狩場山(500m)

(会友 255 佐藤美和子)

令和5年3月5日

9時 大田村の財前家墓地の前に集合。

安東支部長から今日の山行は危険な場所があり、いつ誰が落ちてても不思議ではない。山行においては、常に危険があることを意識し安全に登ってもらいたい。技術を高めるには理論的に勉強して欲しいと良書の紹介もあった。

また、かなり脅かしたが、失敗するからとか、年だからとかなどで、尻込みせずチャレンジして欲しい、との話があった。

その後 焼尾公園に移動し4班に分け、ヘルメットやハーネス等を装着し、ロープ等装備を確認した上で、9:45登山開始。

初めは、遊歩道のようなだったが、直ぐに足場の悪い急登や岩場が続く。60分ほどで大きな岩場に到着。リスクが高くなるので、ロープで二人つながる。ベテランさんはサッサ

とできるが初心者の私は全くできずつないでもらう。

岩場や狭い尾根道ではセルフビレイをとりながら慎重に登り、一人ずつ通過する。狭い岩場の先に懸垂下降が必要などころがあり、支部長がボルトを打ち込みそれにロープを掛けて下降する。懸垂下降は2回目なので、できるのではないかと思っていたが、今回は態勢がうまくとれず、足が動かず、苦勞した。訓練の必要性をつくづく感じた。

その後の難所では、簡単なセルフビレイの仕方やトラバースするときの歩き方、基本的なスタカット、コンティニューアスの方法等も教えてもらった。

3時間ほど登って、安全なところ(広々とした林道)に到着したところでロープやハーネスを外す。

その後490mの三角点を經由し、500mの狩場山山頂に到着。下山途中では城成仁王像に立ち寄る。さらに工事中の林道や杉林を通り県道に出て、14時45分ごろ、登山口に到着した。

私は本格的に登山を始めて間もない。危険な山には行かないし、登山技術を身につける必要はあまりないと思っていたが、旦那と二人で登る時に足手まといにはなりたくないし、少し難しい山に登る技術を多少なりとも、身につけたいと3回の研修に参加した。

今回もいろんな場面で指導していただき、技術知識を身につけることの必要性を感じた。

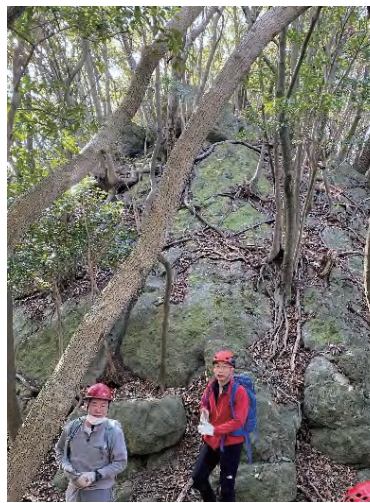
また、若手の方々の熱心さ、技術を身につけようとする意識の高さにも刺激を受けた。

支部長のチャレンジして欲しいという言葉をしきりに実践していきたい。

参加者 安東 中野(稔) 田所 下川 櫻井 丹生 佐藤(裕) 久知良 笠井 中野(梨) 橋本桂 生野 佐藤(美) 寺道 川村(寅) 川村(美) 上野
5時間45分 12.8km 累積標高差 555m



狩場山山頂集合写真



緊張の中にもほっと一息



絶景の稜線を慎重に登る

支部研修
「小表山西稜線を登り鷹巣岳西稜線を下る」
 2023年4月1日(土)
 (会員 16617 久知良美登里)

支部研修参加3回目。

宇目タウン集合しその後、林道開通記念広場へ移動。広場でまず基礎研修として、フィギュアエイトノットフォロースルーとクローブヒッチを練習するがなかなか出来ない。数回繰り返し、できる人に教えてもらいながらやっと出来るようになる。フィギュアエイトノットは懸垂下降する際に必要なものであるがクローブヒッチはロープの仮固定と用途は書いてあるが、「どんな時に使うのだろう」と初心者の私。「この二つは覚えておきなさい」と支部長。

4組のパーティーで出発。私は、櫻井さん、丹生の組へ。登山口へ移動し登山開始。以前2回ほど登ったことはあるがいずれも登山道を通っての登山。今回は登山道入って

すぐに右側の急登を登り稜線を目指す。稜線につくとすぐに大きな岩が前に立ちはだかる、右端に岩の割れ目あり。先頭パーティの笠井さんが岩の割れ目からロープを持って登り順次同じグループの人が登る。

次は私たちのパーティー、前の人たちの足の置き場所を参考にさせてもらいリーダーが先頭で登り、リーダーのOKが出て登っていく。ここで初めて林道開通記念広場で練習したダブルフィッシャーマンズノットが役に立つ。以前1回も2回も仲間にしてもらっていたが、今回は自分で出来た、私の中の一步前進。

何とか登れた。景色がいい、天気もいい、しばらくいい景色を眺め、ミツバツツジに癒されながら歩を進める。地図上ではなだらかそうに見えるが、結構アップダウンがありしかも岩場、かなり緊張する。それに、ロープで三人が繋がり私は真ん中、ロープに引っかからないかと何時も足元が気になる。

ロープを気にしながらも、ついに小表山に到着。頂上からの写真を1枚だけ撮り、すぐに鷹巣岳を目指す。

鷹巣岳頂上付近に今年初めてののあけぼのツツジ発見、やはりきれいだ。テンションが上がる。

鷹巣岳到着。

鷹巣岳頂上からは登ってきた反対側に降りていく、懸垂下降が5回あるとのこと。まず、笠井さんのグループが下りるためのロープを張ったら、笠井グループが全員降り、ロープを回収、次は丹生がロープを張り、全員が下りたら丹生がロープを回収する。つまり、Aがしたら今度はB、次はC、Dと次々に行く、なかなか効率が良いなるほど思った。そして全員が5回の懸垂下降を終え、涸れ沢を下ると登山道に合流。無事全員が下りてくることができホッとす。学ぶことがたくさんあった研修でした。ありがとうございました。

登山口 9:11 稜線到着 9:26 小表山頂上 12:48
鷹巣岳頂上 13:16 登山口 14:59



3 月月例山行
縦木山シニアトレッキング (484m)
2023年3月12日(日)
(会員 15827 土屋多喜子)

JR 幸崎駅に9時30分集合点呼の後、車に乗り合わせ登山口駐車場に移動。駐車場にはトイレもあり広い。ミーティングで支部長より、支部会員として自覚を持ち登山に向き合うようにとの注意。

登山開始 10時20分 準備体操をし歩き始めてすぐの道

脇に大きな樺の木があり、落花で道半分程が赤い絨毯を敷いた様になっていて美しい。山からのプレゼントのようで、踏まないように避けて歩く。登山口にたくさんの杖を用意してあるが、青竹の色もまだ褪せてない、道はのぼりやすく、分かり易く地域の人が健康登山の山として大切にしているのが感じられた。

照葉樹を中心とした自然林が山全体を覆い、時々日も差す天候のもと、木漏れ日を浴びながら森林セラピーを満喫しつつ途中3回の休憩を取り、支部長から脱水を起こさず元気に登るには・・・等の知恵も。

シニアトレッキングは、会話をしながら歩ける速度とのことで、前後の人、久しぶりの人、初めての人などと交流しながら楽しく登る。

所々に木札が掛けてあるが、分かり易い文字で文句が素晴らしい。

「あんげで」「こんげで」「まちがんごとな」等々、もうあまり使われない方言だが、意味が解らない人に教えたり、教えられたり、次の札にはどんな言葉?等、この木札の文言でより会話が弾んだ。

頂上着 11時40分 登り所要時間 1時間20分

昼食 記念写真(不安定な場所でカメラを構える支部長に、みんなハラハラ)

さすがに一等三角点を持つ山、頂からの景色は海、島、山、町と多彩。

臼杵湾に浮かぶ津久見島、その奥に彦岳、方向を変えて、津久見の町、白山、大志生木等見飽きない景色。

支部長と三角点ハンターの飯田さんより、三角点のレクチャーがあり、みんな興味深く真剣に耳を傾ける。これで三角点に入り込む人が出そうな気がした。

下山開始 12時30分 赤い樺の絨毯に別れを言い、下山所要時間40分で駐車場に。誰1人、何のトラブルもなく、1回目のシニアトレッキングを終える。

ミーティング後散会。月例山行に参加が難しい者に、無理のない山に、無理のない速度で、がモットーのこのシニアトレッキングは嬉しい企画であり、心より感謝いたします。

参加者 29名(91歳~50歳 教室生4名も参加)

4月月例山行 矢筈岳(267m)

2023年4月16日(日)

(会友 178 清水久美子)

4月の月例山行は姫島の最高峰であり、山頂に一等三角点のある矢筈岳に登りました。参加人数は42名、私が参加させていただいた山行の中でも忘年登山に次ぐ参加人数でした。伊美港から姫島行きフェリーを利用して、いざ姫島へ。約20分程度で島に到着です。到着後点呼を取り、リーダーである丹生さんから今回の山行のコース説明、飯田さんから矢筈岳の由来(矢筈は矢羽根の突端にあるV字の切れ込みのことで、双頭の山の形が似ていることから名付けられたそうです。確かにフェリー乗り場横の公園から見るとはっきりと双頭の山でした。)の説明などがあり、いよいよ出発です。登山口までは舗装道路を歩きますが長くはかかりません。皆でワイワイお話をしながら楽しく歩いていたので、すぐに矢筈岳の登山口です。そこからは歩きやすい登山道ですが、昨日の雨の影響からか少し滑りやすくなっていたので、注意しながら歩きました。登山道の途中で分かれ道もありましたが、案内板があり迷うことはありません。登山道はスミシなどが沢山咲いており大変癒されましたし、木陰の中の登山道なので暑くもなく気持ちよく歩くことができました。山頂には展望台もあり、以前登った時よりも木々が伐採されており、おかげでかなり見晴らしがよくなっており、国東の山々がよく見えます。山頂には1等三角点と、なかなかお目にかかることのない天測点もありました。下山は大海に下山予定でしたが、急坂であることと昨日の雨で登山道が大変滑りやすいとのことで、元来た登山道に戻ることにになりました。そこからアサギマダラ休息地である、みつけ海岸に行き、海を眺めながらのんびりと昼食をとりました。昼食を終えて、さあこれから出発の準備をしようとしていた時に、雷の音が聞こえ、雲行きが怪しくなってきたため、その先にある子午線標を見に行く予定でしたが、本日はここまでにしてフェリー乗り場に戻ることにになりました。残念な気持ちはありましたが、フェリー乗り場に向かう途中土砂降りの雨にあったので、引き返す判断は正しかったなと思いました。それにしても天候まで予想するとは…驚きました。

今回私の中で残された宿題となった姫島の子午線標の位置もリーダーに詳しく教えていただいたので(本当に地図上で山頂にあった天測点の真北の位置に子午線標があるよ

うです)、確認にまた訪れようと思います。リーダーを務めてくださった丹生さんをはじめ、参加いただいた役員の方や山行に参加された皆様に感謝いたします。

色々勉強になりました。ありがとうございました。

矢筈岳参加者

丹生、首藤、阿南、飯田(勝)、鹿島、中野(稔)、下川、櫻井、宮原、今川、大渡、佐藤(裕)、久知良、深草、平原(健)、笠井、中野(梨)、安部、遠江、宮本、清水(道)、清水(久)、松浦、賀来、古屋(耕)、河津、平原(瑞)、三浦、古屋(ア)、青木、飛高、諸田、吉田(三)、松内、佐藤(千)、山田、矢野、興梠、皿山、上橋、坂田、佐藤(美)



矢筈岳山頂にて

2. 個人投稿

ペンリレー・第46回

ネーパル・ランタン谷のトレッキング

(会員 15689 工藤吉子)



庭の片隅にシャクナゲの花が咲きこの花を見ると思い出す。2019年4月チベット国境に位置する、世界一美しいといわれるランタン谷のトレッキングに6人で出かけた、カトマンズから断崖絶壁の悪路を7～8時間かけてシャブルペンシに移動。窓を開ける事もエアコンも扇風機も無い、硬い椅子の埃だらけの古いバスで山道を走った。

初日はランタン川に沿って急登の悪路を汗をかきながら9～10時間かけて歩いた。山中で猿やリスに出会う。2500m ロッジ・ラマホテルに着き痛かった足裏を見ると大きな水膨れが出来ていた。水を抜きタンポポの酵素を注入、痛かった。

2日目谷の両側が赤・白・ピンクのラリーグラスの大木に彩られ、緑の溪流に映える絶景をゆっくり散策しながら歩くのは最高でした。森を抜けると大きく崩れたガレ場に出た。上から落ちてきそうな岩、下は白く濁った激流。危険と書いた看板。念仏をとえながら慎重にトラバース。谷が開けると遠くに白い平原が見える。その石雪崩は谷を這って谷底まで続いている。2015年の地震による大規模な雪崩と地滑りでランタンの村は一軒を残して消滅。地震で壊れた家の残骸に可憐な三尺アヤマが紫の花をつけていた。白い平原に一筋の道が続いている。まだ多くの人が其処に眠っていた。4か月前に亡くなった母の事が思い出され、涙を流しながら歩いた。足の痛さに耐えながら歩く。3000mを超えたので高山病の対策でダイヤモンドモックスを服用開始した。

3日目キャンジン・ゴンバ迄は4時間程度の行程。村を出ると石を積んだ壁チョルデンの列が並ぶ。周囲の山は白い雪化粧に覆われ風は爽やか天気だった。昼食後高度順応の為50m程度まで登り大きな声で歌を歌う。膝痛と足の豆に耐えてよく頑張ると仲間褒められた。隣のロッジに若い女の子が体調不良というので尋ねる。吐き気・頭痛・食欲不振でヘタパッている。症状から高山病と思われるので下山を勧めた。夜から雨が降ってきた。

4日目昨夜の雷雨は嘘の様な青空の天気。休養日だが訓練を兼ねて4350mのキャンジンリのトレッキング、ゆっくり美しい高山植物を眺めながら頂上を目指す。残念ながらブルーポピーの花は見る事が出来なかった。6月頃咲くという新芽を見ることは出来た。頂上の眺めは素晴らしく360度の展望。米寿・傘寿・古希のおめでとう記念写真・ジュースで乾杯・万歳三唱をした。

5日目雪が舞う吹雪状態で寒く外に出ることは無理。行動計画について検討し天候不良の場合はルートを変更して下山することにした。

6日目天候は悪くないが装備からキャンジンゴンバ4800m登頂は無理と判断し全員で下山する事にした。6時間程度でロッジに着いた。洗面器に湯を用意してもらい顔・手・足を洗いさっぱりした。

7日目登りのルートが続くがラリーグラスの大木の花を眼下に感動したトレッキング。ラリーグラスの森を抜けると来た道と違い、ロバの道と言われ人通りも少なかった。

8日目花は少なくなり森林の山道を歩く。歩く人は少なく急坂が多い。お昼にポーターがトゲトゲスープを作ってくれた。美味しかった。シャブルペンシに向かうが激坂が多く踏ん張りが効かず跛行しながらやっとの思いで下山した。よく頑張ったと自分で自分を褒めた。夕食後女性4名でこれまでの人生で辛かったこと・苦しかったことを夜の更けるのを忘れて話した。体調管理で毎朝覚醒時に血中酸素を測定、朝食は御粥と味噌汁・卵を摂取し体調を整えた。ランタン村の生活は自力で夜明けと共に働き日暮れと共に仕事を終わる。人の手が入っていない自然のままの村でした。地震によるランタン村の瓦礫の光景には心を締め付けられた。事故もなくトラブルもなくすべてが順調に終わった。仲間に恵まれリーダーに恵まれた旅をシャクナゲの花を見るたびに思い出す楽しい旅でした。

より安全な登山のために 起きる事故は、起きる No49

(会員 9193 安東桂三)

昨年は、落石を3度、経験した。

私が20～30歳台の若い頃は、何度か落石を経験していたが、直近の数十年は、落石を経験していなかった。若い頃の落石は、阿蘇のクライミング中に岩が落ちてきたり、北アルプスの岩場での落石だった。そのような場所での落石は、上から落ちてくる石をみて、右や左に避けたり、またはザックを頭の上に載せて、落石の嵐を避けたりとすることもあった。

また、多くの登山者を案内しているときに、直径1.5m程度の岩の落石を経験したことが一度ある。これも、私が20～30歳台のことだった。大分県山岳連盟の県民冬山登山教室だった。久住山に登り、北千里ヶ浜に下りてきたときのこと。昭和37年に起こった冬山遭難(九重連山で多くの人命が亡くなった)のことを、その遭難碑の前で、碑に背中を向けて、登山教室の生徒に向けて、説明していたら、私の後ろの高いところで何か音がした。振り向いて、見上げると、大きな岩が動いていた。それで、大声で「落石 逃げろ」と叫び、皆の方へ走り出した。一人の年配女性が、腰を抜かしたように、座り込んでいたので、その女性の腕を持ち、引っ張りながら、逃げた。幸い、岩は途中で止まり、登山教室の参加者には、被害がなくて良かった。ただ思ったのは、落石を経験していない人、逃げ方を知らない人は、同じことが起こったときに、被害は避けられないなど。

その理由は、私と私が腕をつかんで逃げた女性は、皆を通り越して、遠くまで逃げたが、多くの登山教室の生徒は、2～3歩、後ずさりしただけだったから。

最近では落石を経験していない。この意味は、人が死ぬような落石のことを言う。由布岳や、阿蘇山や北アルプスの一般ルートで、多くの登山者が登っている場合、よく「落石」という言葉を聞く。これは、先に述べた落石とは、少し危険度が異なると思う。その落石でも、多くの登山者は、落石の対処をせず、あるいは対応が出来ない。それを多くの登山者、当支部のメンバーに伝えることは難しく、私の課題だと考えている。

昨年は、本当の意味での落石を経験した。

一つ目、7月17日、大崩山系の高橋谷。数日前に雨が降り、沢は水で増水しているのを理解していたが、メンバーの一人が、休みが取れにくい状況で、17日のみしか休めず、何

とかこの日に沢登りしようと、水量が少なそうな沢を選んでの沢登りだった。が、やはり水量は多く、その沢に登る装備も不足し、途中より下ることとなった。

沢登りも難しいが、沢下りはいっしょに難しい。登ったところを下ることは出来ないもので、沢の左岸を下っていた。岩が積み重なっているところで、その積み重なった岩を、大丈夫かと左足で確認していたところ、その岩が動き、私は、岩より先に滑落し、そこへ、その岩が落ちてきた。たぶん岩の重量は200キロぐらいあったのではないかと思う。左肩から、左足にあたり、岩は止まった。足か肩のどこかが、折れたか?、どこかが切れてないか?と思ったが、幸いあちこち痛いものの、見た目は出血もなく、歩けそうだったので、じわりじわりと下って行った。自家用車に着いてから、衣服を脱ぎ、ケガの箇所を確認し、大分の当番医を受診した。レントゲンの結果、骨折はなく打撲のみで、6週間くらいで完治と言われた。やはり、簡単な沢でも、水量を考えると入山を考えるべきであったと反省した。

二つ目と三つ目は、9月17日の谷川岳。一ノ倉沢烏帽子沢奥壁南稜の登攀時だった。いずれも取り付けのテールリッジ。南稜テラスへの登りで、メンバーの一人が落とした30センチ程度の落石、避けることが出来ずに右胸に一発。次は、下山中にメンバーの一人が落とした落石、二発。その二発の内、一発目は避けたが、続いた二発目は、当たってしまった。谷川岳は多くのクライマーが登っているのに浮石が多い、難しくはないが気のおけない谷川岳の怖さが身に染みだ。

やはり、斜面があれば、接着剤で固めた岩でないもので、岩は落ちる。同じように、斜面では、人も落ちる可能性がある、要注意。

私の無名山ガイドブック (No88)

場所：村向上 (885.52m) 奥江 (384.16m)

(会員 10912 飯田勝之)

今回は佐伯市宇目の木浦にある小ピークを紹介しよう。一つは傾山から東に延びる稜線上の村向上で、稜線はそこから東へ延々と三国峠や佩楯山を経てまた東へと続く。もう一つの奥江は新百姓山から北に派生する稜線の末端のピークである。

村向上 (むらむかいのうえ)

傾山から北東に派生する長大な稜線が、コンタ820mまで下がったあと、再び880m以上にせり上げたピークがこの峰で、このあと稜線はいちだんと高度を下げていって

る。

県道御泊奥江線の西山三叉路から西へ約4.3 kmで、谷に沿って上る市道を入ると約1.5 kmで悪所内の集落に至る。ここより神社の前を通り林道を行って最初の分岐を右へ行くと神社から約300 mで分岐があり、ここまで県道から約1.8 kmは車で入れよう。

左の林道を約40分でまた分岐があり、左にとって荒れ果てた林道を15分上ったところから左に登る作業道が上がる。これを登ると10分ほどで道がなくなり、すぐ先でスギ林も終わるので前方の礫岩の多い谷に沿って混交灌木林に登る。15分ほどの直登で稜線にいたるので右へたどるとやがて傾斜が緩くなると、そこは南北に長い稜線状の山頂で、その北の端の岩の多い最高地点の、岩に囲まれた窪地に4等三角点がある。

25000分の1地形
図：中津留
参考タイム：悪所内～70分～林道終点～40分～村向上



奥江（おくえ）

北川の支流の中岳川とその支流の西山川合流点で、県道日之影宇目線と県道西山御泊線の分岐の間にそそり立つ小ピークで、生木峠からクサギヤブを経て新百姓生へ連なる長い稜線の始まりのピークでもある。ここへ登には川の合流点にある県道分岐の橋の袂から直に稜線にとりついて灌木のヤブをこいで登るのも良いが、奥江集落側から登る方が踏み跡道があり楽である。

県道日之影宇目線の木浦鉦山の谷の入り口にある奥江集落の中程に、県道から鉄の手すりのある階段を下り低い橋を渡り石段を登ると小さな神社があるのでその横から背後の稜線にとりつく。稜線に沿ってテレビの中継アンテナにつながるケーブルがのびている。その沿うように急斜面を登っていく。神社から10分ほどでやや広い平らな稜線で、右の斜面は広い皆伐地となっている。再び急な登りが続き、神社から25分ほどで緩くなり、ケーブルに沿って登ると巨岩の上に至り、アンテナがあるが展望は得られない。そこから左に行き、やや緩い登り5分足らずで三角点のある山頂に至る。4等三角点は山頂の東の端近く、最高地点から数m東のわずかに低い地点の深いコシダのブッシュの中に埋もれていた。

25000分の1地形
図：中津留・木浦鉦山
参考タイム：県道～5分～神社～30分～奥江



こぎこぎ倶楽部

元越山の子午線標探索

場所：大河内山 (353.9m) 赤松 (373.7m)
(会員 10912 飯田勝之)

1月のこぎこぎ倶楽部の山行は、新年らしくちょっと趣向を変えて元越山にある天測点の子午線標探索と付近の三角点山頂散策となった。このアイディアは、支部報98号(2022.7.25)に佐藤裕之会員が姫島の矢筈岳の子午線標のことを書いているのを読んで思いついた計画だ。20年近く前(2004.10.11)に私は、鶴見半島の付け根にある大河内山(三等)とその西にある赤松(四等)というピークに登ったことがあるが、この時、赤松の三角点地点の200m程手前のヤブの中にあるのを発見したことがあるのを思い出し、こぎこぎ倶楽部の皆さんに案内したいと思いついたのだ。

20年ほど前の発見は、赤松を目指して登っているときに稜線脇のヒサカキのヤブの中に偶然に目についたものであり、もちろんその時私は、その物体が何であるか知らなかったが、珍しいので写真に撮って、帰宅後調べたら元越山山頂にある天測点の真北に設置された子午線標であることが分かった。

天測点は子午儀を使って行う天文観測の精度を高めるために、昭和29年から昭和33年までの間に全国の一三等三角点のうち48ヶ所に設置された。しかしその後子午儀に代わってアストロラーベやGPSなど高性能の観測機器が使われるようになり、天測点は不要となってその後は造られず、現在残ってる地点は43ヶ所とのことである。私は姫島の矢筈岳と元越山以外にも、宮崎県南部の牛ノ峠、長崎県長崎半島の八郎岳、中野会員と登った熊本の笠山、そうして十二支会という登山会に参加して岡山県の三山龍王山の山頂でも、この六角形の円柱の天測点を見たことがある。

1月22日(日)午前8時、天気快晴。この日佐伯マルミヤ店前の集合場所に集まった参加者は24名、車12台と

いうこのグループではかってない大パーティである。浦代トンネル手前の県道わきの広場に6台置いて、残り6台に分乗して鶴見スカイライン林道へ。大河内山への登山口となる林道分岐の道脇に駐車して8時45分に登山開始。

今日の先頭を受け持つ古谷会員、大河内山から北に向かって派生する稜線に向かって林道からいきなり取っていく。スギ林の急斜面を23名(1名は別行動)が、てんでに散らばって這い登っていく。なんとも言えないひどいありさまだが、見通しのきく急斜面で互いの声が聞こえ、姿も見えるのでさほど心配はないが・・・、50分ほどの悪戦苦闘。

稜線に登りついたところから隊列を作り直して再出発だ。

20分ほど登ったらコンタ310mの稜線の肩についていきなり前景が開ける。眼下は広い範囲が皆伐後のはげ山で、遠く鶴見半島先端部や遙か彼方の四国の山並みまで見渡せる。少し下っていくと稜線鞍部につけられた作業道があり、これを伝って登るともう山頂直下で、10時15分大河内山到着。

三角点は山頂のフユイチゴの茂みの中に埋まっていた。ここで写真を撮って赤松目指して出発。緩やかに下った先の稜線分岐を右に、スギ林の急斜面を下ると11時5分林道に出る。登山口から来ている、帰り道に使う林道だ。そこから正面の稜線にとりついていく。小灌木の中の稜線を緩やかに登ること20分ほど、稜線からわずかに元越山側に寄ったヒサカキのヤブの中の緩斜面に子午線標を見つける、ここが元越山の天測点から北に2.95kmほどの地点だ。私にとって久しぶりの再会だ。みんな、初めて見る標識に大喜びのようすだ。触ったり抱き着いたり写真を撮ったり、しばし憩いのひと時。せっかくだからと標を囲んで全員集合の記念写真。そうして次の目標の赤松へ。4等三角点に12時15分到着。ここで昼食としたが、弁当の前に、そこから200m程先にある377mの標高点まで足を延ばすメンバーが9名。残りは早速腹ごしらえだ。

みんな揃って集合写真、そして12時45分下山開始。稜線の途中から林道下って、あとはひたすら林道歩き。この林道は大河内山の直下、高度差70mほどの所を通過して登り口の林道分岐へと下っており、私が最初に来たときはここから山頂までの急斜面につけられた作業道を20分ほどで登った記憶がある。13時40分駐車地点に到着。予定ではこのあと半島先端部にあるワルサ山へ足を延ばす計画であったが、予定時刻を40分ほど下っており、天気予報の通りに朝の快晴の空はいつの間にかすっかり曇って今にも降り出しそうな模様なので、本日はここまでとし6台の車をデポした県道わきに戻って解散となった。

参加者：飯田、鹿島、中野(稔)、桜井、宮原、丹生、大渡、神田、佐藤(裕)、久知良、平原(健)、中野(梨)、安部、

遠江、清水(道)、清水(久)、賀来、古谷、平原(瑞)、榎園、飛高、甲斐、関、佐藤(美)



子午線標を囲んで



赤松三角点にて



大河内山にて

こぎこぎ倶楽部
佐伯大島の三角点山頂踏査
(会友 163 柳瀬里子)

3月5日(日) 鶴見半島の突端にある大島。

今日は大島の北と南にある二つの三角点ピークを訪ねる山旅。

昨年5月に計画されていたがコロナ感染予防のため乗船が出来なくなり断念したが乗船が可能となったので今回の実施となった。

早朝佐伯港6時30分の始発に乗船するため6時10分に集合。

佐伯港から大島田野浦港に向かい7時02分に着岸。すぐに船隠四等三角点に向かう。

時間があるのでその先の権現社にも寄る。権現社は雨戸が閉められていたが開くことが出来たのでお参りさせてもらう。壁に張られていた年間予定表の中に7月1日の「山開き」の文字を見つけ少し嬉しかった。

今度は権現社から船隠近くまで戻り大島の二等三角点に向かう。左側は権現鼻方向の崖が切り落ちていた。見下ろすと磯にはいくつかの岩場があり瀬渡しで釣りをする人の

姿が見られた。

縦走路にはツルが絡みつき進路を遮り、油断すると木に頭をぶついたり、地上を這うツルに足を取られながら進むことに。背の高いカヤで自然にできたトンネルを潜ったりもした。ここでは道を開くナタやカマ、枝切りバサミが大活躍した。特にトップを行った方は悪戦苦闘された事と思うと感謝です。

途中、猪の沼田が大小いくつか見られた。以前、猪は生息していなかったとのことでたぶん十数年前に鶴見半島から海を泳いできたのだという。猪が泳ぐのを目撃者した者がいたとか。

また頂上付近まで石を積み上げた段々畑の跡が残っており、今は荒れているが水が確保できないこの地でどんな作物が作られていたのかと当時の暮らしに思いを馳せた。

また自然に皮がはげ落ちるバクチノ木や十両の実や光り輝く蛇の髭の実など初見の植物にも会えた。

大島の二等三角点の周囲は広場となっており日当たりが良いのでそこでのんびり昼食をとる。そこからは激下りして加茂神社に立ち寄りお参りした。アコウの大木は樹齢300年という。地下(地名)を經由し田野浦港へと戻る。

大島には公民館と一緒にあった農協(残念ながら休日)以外にはお店もなく、唯一の郵便局を探すと車の入らない狭い路地にあった。

今は廃屋となっているが立派な小・中学校、幼稚園・町営集合住宅跡も残っており、往時には千人以上が居住していたというが、現在は3地区合わせても住人は100人弱とのこと。島には子供の姿はない。

そんな島の生活を感じながら帰りの船が出るまでの3時間をどう過ごすかが問題。思い思い磯に降りては戯れ、海の遊びを満喫してあっという間に乗船時間になる。

予定のとおり夕方の便で5時47分に佐伯港に着岸して日程を終了した。

今日はまさしくこぎこぎ倶楽部の名のとおり醍醐味を楽しむ山行となった。

参加者:飯田、鹿島、宮原、今川、大渡、神田、平原(健)、遠江、柳瀬、清水(道)、清水(久)、平原(瑞)、飛高、諸田



船隠の権現社前で



大島2等三角点
について

こぎこぎ倶楽部
臼杵市街地外れの里山歩き
(会員 10912 飯田勝之)

3月のこぎこぎ倶楽部の山行は、臼杵市の里山歩きで市街地の西近くに連なる小山塊の稜線歩きだ。3月19日(日)午前8時に臼杵市南都留コミュニティセンター前集合で、集まったのは22名、車14台だ。早朝から騒がしかったためか、近くにある駐在所のおまわりさんが私服で何のためかと聞きに来て、そのあとまた「詐欺にご注意を」のプリント入りのティッシュペーパーを配りに来た。

まずは全部の車で下山予定地の家野の天満宮駐車場に移動し、水ヶ城の登山口のある山の中腹まで乗りつける車以外をそこに駐車。そして5台の車に分乗して出発だ。コンクリート舗装された細い急坂道を上って登山口となるゲート前の小広場に駐車。

出発準備を終えて9時前にコンクリート舗装のものすごい急斜面を登ること数分でアンテナ横の展望台へ着く。眼下に臼杵市街地と津久見島を浮かべた臼杵湾、前方には鎮南山から姫岳に至る稜線と、その背後に後に平らな碁盤ヶ岳が一望だ。

しばし景色を楽しんだら縦走開始。最初のピークの水ヶ城までは10分余りだ。ウラジロに埋もれている4等三角点(280.9m)を囲んで記念写真。さてそこから次の羽衣山への縦走だが南北に長い水ヶ城の山稜を西に直角に折れて進むことになり、急斜面の下降地点探しから始まる。急斜面を下ったらあとは快適な稜線道で緩やかにアップダウンが続く。時折り右の景色が開けて、遠く諏訪山や下ノ江方面の景色が見える。

小ピークの四つ目は後半の縦走路の分岐点で、まずはその先の羽衣山へ。10時50分着。この山塊の主峰(435.6m)だが周りは薄暗いヒノキ林で風情がない。集合写真を撮ったらUターンで、10分余り戻ったら木漏れ日の多い天然林のピークに着いた。三ツ頭へ行く縦走路が直角に曲っているとところだ。時刻はまだ11時15分だが、ここで北風を

避けて南斜面で弁当を開くことにした。

11時45分、再出発。大きく下って緩やかなアップダウンで247mの標高点通過時にちょっと方向間違いで修正があったりしながら、緩く下ると古い峠におりついた。鞍部に地藏尊が彫られた石が二つ。一つが倒れているのを起こして二つ並べる。横を古い山道が峠を横切って両方の谷間へと下っている、東の市街地と西の中臼杵の里を結ぶ古道だろう。道脇には炭焼き窯の跡も残っている。

峠から高度差100mのやや急な登りで三つ目のピーク、三ツ頭(305m標高点)だ。13時着。三つ目の記念写真。そうして次のピーク目指して出発だ。シイ、カシ、タブなど照葉樹の多い快適な林の中の道、ごく緩やかな稜線歩きでのんびり気分。30分ほどの稜線散歩で、スギの植林となり、風倒木を避けながら行くと前方にほとんど壊れかけた建物が現われた。回り込むと石の鳥居があり、壊れかけた社の中には石の祠が祀られている。ツルガ山(274m標高点)の山頂の社だ。鳥居と社の前で今日四つ目の集合写真だ。

あとは車を置いてある天満宮への下山。来たルートを100ほど引き返してスギ林の山腹を下ると古い山道と出会った。あとはツルガ山から東に走る稜線に沿って下るだけ。14時40分天満宮について、二台の小型車で水ヶ城にデポしている5台を回収後、天満宮駐車場に全員揃って解散となった。市街地近くにこんな手ごろな山歩きができるルートがあるのだが、さほど利用されている気配がなくてもったいないように思うが、逆に静かな山歩きを楽しめるルートでもあろう。



羽衣山にて



ツルガ山にて

参加者:飯田、鹿島、宮原、今川、丹生、神田、佐藤(裕)、平原(健)、安部、遠江、柳瀬、清水(道)、清水(久)、小谷、賀来、榎園、飛高、諸田、関、佐藤(美)、井村、河村

六甲山行

(会員 16315 佐藤裕之 会友 255 佐藤美和子)

3月25日(土)

鬼ノ城(397m 岡山県総社市)

鬼ノ城は、白村江の戦いで、唐・新羅連合軍に敗れた大和朝廷が、報復を恐れて築いた山城ともされているが、実際は不明のようだ。スケールの大きさは驚くばかりで、テレビでも放映され、観光の対象でもあり、日本百低山にも選ばれている。とりわけ、復元された城門は、見事である。鬼の城だけでは、物足りないので、周辺のハイキングルートにも足を延ばす。

泊りは津山にしたが、ちょうど桜祭りをしていたので、見に行く。桜も良かったが、会場の津山城は大規模な平山城で、桜と併せてえも言われぬ美しさであった。

3月26日(日)

那岐山(1255m 岡山県奈義町 鳥取県智頭町との境の山)

那岐山は、信仰の山で、宗教的遺構が残されている。小雨決行レベルの雨なので、登ることにしたが、他に登山者はない。ほとんど霧雨程度だったが、稜線に出ると風雨がきつくなり、寒々としてきた。頼りにしていた稜線の避難小屋が完全に倒壊しており、愕然としたが、別に立派な小屋が建てられていたので、休んで昼食とした。

山頂から何も見えないが、これも山のありのままの姿である。

下山途中、八巻山と大別当山にはそれぞれ山城跡があるようなので、登ってみたが、城跡の痕跡がよくわからない。日曜というのに、誰にも出会わず、駐車場にも他に車はなかった。クマの生息圏内というが、出会わなくて良かった。5時間23分9.2km上り980m下り980m

3月27日(月)

六甲全縦1日目 六甲山(931m 神戸市)

昔、「孤高の人」を読んで、1度やりたかった六甲全山縦走だが、大分から六甲山に登るなら、時間的にも費用の点でも北アルプスに行ってしまう。1度、ドライブがてら、行っ

たことがあるが(車道から5分程度)、ちゃんとした山登りではなかった。

最近になり、時間的余裕もいくらかできたので、決行することとした。若い時なら、1日で縦走できたと思うが、寄る年波には勝てず、2日に分けた。登ってみると、やたらと上り下りが多い上に、延々と住宅街の中を歩かねばならない。面白かったのは、やはり摩耶アルプスで、その名のとおりに、アルペン的で、この山行のハイライトである。長い道のりだが、時折、左右に神戸市街地が見えるので飽きることはない。菊水山の300mの登りで、連れがペースダウンしてきたので、次の布引ロープウェイで下山させ、摩耶ビューラインで本日最高峰の摩耶山に登らせるというウルトラCを繰り出した。六甲山ならではの裏ワザである。これにより、予想通り、12時間弱でたどり着いた。長い距離ではあったが、まだ、多少の余裕があり、その気になれば、宝塚まで行ける気がした。

11時間50分 26.4 km登り 2537 m下り 1784 m



鬼ノ城
城門



津山城の夜桜

六甲縦走2日目 28日(火)

昨日に比べれば、半分くらいの労力になるだろうか? 六甲テラスでのんびりしたり、寄り道したりでのんびり歩く。六甲全縦は、前半戦は忠実に山頂をたどるが、六甲山頂から東はなぜか、ピークを外して、トラバースしていく。これは、あまり面白くない。時間があるので、できるだけピークを踏みながら歩くことにした。9時間歩いてようやく宝塚に到着。宝塚温泉で汗を流す。宝塚は、やはり、どこことなく洗練された雰囲気のある街である。

時間9時間10分 19.1 km登り 876 m下り 1593 m

2日間合計 21時間45.5 km登り 3413 m下り 3373 mであった。

登りと下りが合わないのは、宝塚に下山したからかな?

なお、六甲全縦は、公式な資料では、56 kmとなっているが、実際は45 km前後のようである。

※登った山

1日目 鉢伏山、旗振山、鉄拐山、高倉山、梅尾山、横尾山、東山、高取山、菊水山、鍋蓋山、摩耶山、摩耶別山

2日目 西お多福山、後鉢巻山、水無山、大平山、岩原山、譲葉山、岩倉山 全19座



六甲 須磨アルプス
馬の背



岩倉山

祠の前に三角点があり珍しい。
どうやって観測したのか?

4月9日(日)

鶴見岳一気登山(1375m)

佐藤裕之

いよいよ、最後の韋駄天参加となったので、報告する。鶴見岳一気登山コースも歩きと走り、あわせれば20回近く登ったであろう。

50歳前後のときは、2時間くらいで登れて楽しかったが、最近は3時間近くかかるようになり、頂上に着いたときは、疲労困憊のありさまとなった。

昨年の一気登山はコロナのため、5月開催で、70になったので、これを機会に止めようかと思っただが、今年は例年通り、4月9日開催なので、やはり70歳であった。ということで、最後の出場とする。なお、今年の記録は、公式記録2時間52分。制限時間ギリギリだが、最近、諸般の理由で走りこんでいないので、自分では、まあまあかと思っている。中止や延期が続いて寂しかったこの大会もようやく賑わい

が戻ってきた。

来年は、みんなで「のびのび」を歩きましょう。

距離 11.4 km 登り累積 1399 m



鶴見岳一気登山 スタート

訂正報告

支部報 88 号の子午線標についての報告のうち、誤りがあることを姫島の例月山行に際し、発見したので、お詫びして訂正いたします。(文責 佐藤裕之)

訂正箇所	訂正前	訂正後	備考
	天文測量の精度を高めるために天測点と子午線標を設置したのである。	三角測量の誤差を補正するため、正確な天文測量を実施することとなり、天測点と子午線標を設置した。	完全な間違いでもないが、不正確
	1 級三角点	1 等三角点	1 級～4 級基準点は、別にある。三角点は、1 等～4 等
	真北の高台に設置	真北(真南)の高台に設置	南側に設置されることもあるようだ。
	子午線標は、民有地のため、立ち入り禁止とのことらしい。	最寄りの林道が、大分県の管理となっており、関係者以外立ち入り禁止となっている。	表向きは立ち入ることができないが、林道を迂回して子午線標までたどり着けないこともない。

緊急投稿 姫島矢筈岳事故の反省

(会友 11 安部可人)

私は、観光のためサーフ車で参加、予感あり、リーダに困ったら連絡するよう、伝えておいた。でも、担ぎ下ろした櫻井さんが殊勲賞だ！

彼がいなかったら、ヘリしかない。月例登山 20 数年来、今度のような事故は初めてである。骨折処置の経験がない。添え木を取るナタがない。結果的には、股関節骨折では、どうしようもない。Tさんは、車の中では痛がらない、緊急手術したはずだが、案外軽いと思いたい。さて、ヘリコプター対策、GPS の座標を伝えるがベストだろう。高度計を読んで、現在地の高度を知らせるのも、早い救助になる、と思う。

(注) 姫島診療所に電話したら、引き受けるという。本人が拒否した。手に負えないだろうから、正解かもしれない。人間は、転落するとき一瞬本能的に、一番危険を避ける姿勢をとる、と読んだことがある。頭を打たずに済んだ。

あんべ 4月20日

こぎこぎ倶楽部

場所：仮野 580.3 m 梓嶺 725 m

(会員 16955 中野梨絵)

本日のこぎこぎ倶楽部の山行は、大分県と宮崎県の県境の稜線歩きの続きで梓峠から宗太郎峠を縦走するコースです。梓峠は、九州の東岸に沿って延びていた官道(豊前～豊後～日向～大隅)を結ぶ道で、大分県内では日向街道と呼ばれていたそうですが、その日向街道の要にあたる場所に位置しています。

歴史をみますと古戦場跡で、戦国時代、梓峠まで榊牟礼城址である佐伯惟定が島津義弘・家久を追いつめて大敗せしめたとあり、江戸時代では国境の争い、明治時代に入っても西南戦争の戦闘があり、大変歴史ある場所を目指すこととなります。

4月9日(日)朝7時半に佐伯市宇目小野市矢野商店に集合して、326号線を南下して大規模林道宇目小国線で大分県に入り、水ヶ谷地区へ向かうと宗太郎峠に行く道との峠の交差点に着きます。ここで昨日から現地入りして蔵小野公民館で合宿していたメンバー8人と合流して全部で18名集合です。

昨日からの先発組が下山予定地の宗太郎の県境に車を配

置しておく予定のところ、途中の林道工事が終わっていないので、今の予定を変更して、稜線途中の切込三角あたりまで行って引き返すことに決定。

峠の交差点からひたすら走行していると、開けた見晴らしのいい場所があり、遠くの山々を見渡すことができ、右から順に傾山、鹿納山までが見えて爽快です。水ヶ谷集落の手前にある梓峰への入口にある橋の脇に車を停めて、点呼してから8時15分出発。5、6世帯ある水ヶ谷集落をぬけて橋を渡り作業道を歩きだすと、タラの芽や藤の花が咲いてあり春の恵みを感じます。

登っていきながら右手向こうを見ると、地図にある県境沿いの三角点「仮野」があり、標高差70mなのでまずはここを登ることに。歩きやすいネット沿いをしばらく登ると「仮野」の標識と四等三角点があり、周りを見渡すと北西に電波塔がある板戸山が見えました。斜面を下り、ネット際を迂回しながら行くと梓峠です。シカ避けのネットのゲートを入るとまだ植林仕立てで樹木は小さく開けた大地に見え、その奥が梓峠です。

峠は大部分側から見るとなだらかな広い鞍部ですが、県境を越えて宮崎県側から入ると昔は「路極めて険しく難所であり」左右の谷は底がみえないほど険しく馬が重い荷物を運ぶこともできず、人が一人分の荷物を2、3人で分けて運ぶほどであったとのこと。明治にはいってから宗太郎峠の道ができたが、山の地形にそって道があり、こちらもくねくねの難所であった。今現在はトンネルも開通して直線的で走りやすくなっている。

梓峠のシカ避けネットのゲートを開けて稜線歩き、10m、20mのアップダウンがある県境の尾根を進みます。スギ、ヒノキの植林の中、足元にひっそりとカンアオイが葉を広げ、花が咲いているカンアオイもあった。時期が少し違いますが足元の小さな命にたくましさを感じた。(注)

少し険しい登りになり岩稜地帯を超えると梓嶺に到着した。梓嶺の標識と四等三角点があり、山頂はユズリハとナンジャモンジャの白い花が咲いていた。

時刻を見ると11時30分で、予定より1時間以上下がっているの、切込山まで往復する時間はないと判断。昼食をとり、今日はここから下山することになった。狭い山頂の日差しの良い所に18名がそれぞれ腰を下ろしてランチタイム。

集合写真を撮って12時に下山開始。100mほど引き返して北の斜面を下山です。途中から作業道を迂回したりして下り、そして林道に出て30分余り歩くと車を停めている橋に到着。13時05分でした。ここで今日の続きの宗太郎峠までの県境歩きを次の機会に繰越しを約して解散となった。

〈参加者〉飯田リーダー、鹿島、中野(稔)、櫻井、宮原、今川、丹生、大渡、久知良、平原(健)、遠江、清水(道)、清水(久)、古谷、平原(瑞)、榎園、井村、中野(梨)

注：春咲いているのでカンアオイの仲間のミヤコアオイまたはヒメアオイと思われる(飯田)



『カラビナの寿命』 (会員 9193 安東桂三)

4月22日に開催された東九州支部総会において、田所会員が「備品費で安全環付カラビナを2個購入してくれないか」と提案があった。なぜそのような提案が出されたかを、支部会員に説明しようと思う。

昨年の11月23日の高崎山大谷の研修登山において、アイゼンワークの練習をした。

まず、なぜ高崎山で雪がないのにアイゼンを履いて、岩に登るのかについて。例えば、家の近くの低山に登り下る、この行為は、久住山とか祖母山に登る練習になる。ウォーキングが、脚力や心肺機能を高め、本番の登山に良い結果を得る。クライミングは、日頃行わない行為なので、仕事帰りや、週末の半日ほど、大洲の体育館のような人工の壁で練習する、それが、本番の穂高や劔の岩場での結果に結びつく。

では冬山では、どうかというと、日頃履かない重たい登山靴を履き、それにアイゼンを付ける。日常でない足回りは、アイゼンを引っかけて滑落したり、普段では足が上がる高さには届かなかったりと事故に結びつく。そのようなことにならないように、アイゼンの爪先が、自分の体の一部になるようにと岩を登って、感覚を研ぎ澄ます。それが、冬山の安全を保障する。

日頃しないことをするために、岩場の上部の木とか、ハーケンなどの支点到カラビナをセットし、ロープを折り返し、

一方にはアイゼンの練習をするメンバー、もう一方はそれを確保するメンバーが結びあい、ロープで安全を確保して練習する。その支点のカラビナは、まるで、ロープでゴシゴシと擦ることし。特に土のついたロープは鋸のよう。それで、カラビナが摩耗して傷んでしまう。それが、田所会員の「購入してくれないか」になった。カラビナは、金属製品で寿命が無制限とされているが、摩耗や腐食では、その限りではない。

写真左 高崎山でのアイゼンワークの風景、上部の支点到にロープを折り返し、アイゼンを履いて、登っている。

写真右 安全環付カラビナ 丸印のところが摩耗している。普通は、摩耗しないものだが。



第3回安部個人研修

場所：高瀬石仏～178～霊山～160

鉄塔～平野橋(高度計と脱出行)

報告者 会友 183 賀来和子

安部さんから5月6日6時、「観天望気で判断降らない」とメールあり(大当たり)。申込者11名が高瀬石仏8時集合、8時20分明治水路～霊山に向かう。安部さんは、霊園から近道40分、9時24分鉄塔で待ち受けていた。「Old Soldiers Never die, just fade away(老兵は死なず、ただ消えゆくのみ)」、と言って消えた、近くの畑へ。マツカーサー元帥の退役演説、という。安東さんも負けじと言う、「I shall return(必ずフィリピンへ戻るぞ)」と、これも元帥の歴史的名言(よい勉強になった)。今回のテーマは、笠井平原の高度計を見て、鉄塔、ピーク地点で等高線を読んだの現在地確認作業でした。さて下山時、160鉄塔分岐に安部さんのメッセージ「東への高圧線下トラバース、谷越して178へ至るでしょう」と読めた。コースを一任された安東ガイドは乗りました。結果、すぐ滝あり、案の定ト

ラバースは止めた。ガイドは引き返さず、隣の尾根へ故意に迷い込んで、下降の脱出訓練をしたのです。先日失敗した若月さんには、役立つようです。実は、12日女性8人は、水曜登山が雨で中止となり、突然安部ルート片道を実行した。その帰り178地点手前を右に迷い落ちて、アブなかった。今日、その一人若月さんが検証したのです。安東笠井さんのロープワークで難場を堰堤沿い無事下山した。よい勉強になりました。この前は、誰もロープ携行せず、若月さんが反省していた。13:00平野橋安部車が待ち受けて、そく閉会式。安部さんの訓示、「28才の私、先輩から常に後ろを振り返れと言われた」「岩、倒木を記憶せよ」。178三角点すぎた分岐を振り返らず、帰り迷い込んだ8人様へ、分岐に木の枝や紙テープのしるし(回収)を目印に付けておいたら、よかったね(安部)

帰途、安部さんの畑見学、いろいろあるだけの野菜頂きました。

(参加者 笠井、若月、賀来、平原、神田、諸田、中野夫妻、古谷、安東、上野、11名) 安部

反省会

「高度計を使うことで、尾根の何処に居るのか、容易に判断できる」「より深く地形図を読み取れるよう精進は必要と感じ、とてもよい経験になりました」(諸田佳正)「悪い状況になる前にロープをだしておくこと」「ザックの口からロープを出し、エイトノットに環付きカラビナを付けて、いつでも取り出せるようにしておく方法を支部長に教わった」(笠井美世)

(企画者安部から連絡) 高度60、もうひとつのメッセージ地点は通過せず、中野のおちゃんが後日回収した。「右へ荒れた谷道(降り着いて、6日の堰堤に至る)、直進が安東特製地形図のヤブ化した破線路、左が公民館にくだるノーマルです。おっちゃんは、奥さんと160鉄塔まで往復して、安部計画の欠けたところを全部うめてくれました。令和5年5月8日

登山会報リバイバル第3回 東支部別府湾リレー登山

(会友 11 安部可人)

平成10年の真夏、国東と佐賀関からスタートして7日目の最終日鶴見山で合流した風景は、大分合同新聞が報道した。その記録は23年後いくらか会報に掲載されて残る。鶴見山頂写真の皆さんも今や多くが消えた。西孝子さんが元気なときだった。夢の跡だ。

平成10年(1998)12月号(第4号)小鹿山から鶴見山(野村芳雄)、「鶴見岳には昭和37年学生時代学友と登って以来だった。担当した関崎での炎天下あるいは豪雨の2日目の苦労が忘れられない。」十文字から鶴見岳(安東桂三)、「狸峠から塚原越えはヤブに覆われていた。星子隊長が先頭となり、イバラヤススキをかき分けて進む。船底まで4時間、今日も気温は30度をこえる。西さんと阿部さんの声がした。」

平成12年(2000)4月号(第9号)、田原山から十文字原へ(佐藤秀二)、「東鹿鳴越へ向かう。その近くの堆肥置場に着く。手前300mに”立入禁止”あり、フックを外して、堆肥置場に駐車した」城山、百合野山唯一の北取付き点だ。よくぞ殺されずにすんだ。”女性登山者がナタで追いかけられた”と聞いている。誰もが此処に駐車するから男が怒るのも当然か、ご注意。(この日は西さんと二人だけ淋しい)。平成11年(1999)4月号(第5号)、樺木山から御所峠へ(飯田勝之)、「アオキの中は全く視界がきかず、どこまでも続いていそうなアオキのジャングルで、フラットに近い広い斜面は何処が尾根か皆目見当がつかない。徘徊すること15分、野村教授と相談して引き返して下山することにした。時刻はまだ早い。諦めがたい気分ですと、左側にわずかな踏みあとが見つかった。引き返すことを考えて絶えず枝を折って目印をつけながらいく。木々の間下方に間近集落が見えた(大久保)。再び軌道修正。329.0の三角点着、時間が早かったので、焦らなかった。二人の読図力。迷ったときは建物・集落などを見つければ方向・地図が分かる。御所峠からルートを開いてくると言っていた安部・佐藤さんの声がして、待っていた。(後日談)10数年後、飯田、中野、安部が検証した。最初の三角点で別れた。2人は次の329.0まで往復した。独り最終出口でしるしが見つからず5分迷った。

平成11年(1999)、8月号(第7号)、千燈岳(佐藤秀二)「今夜は駐車場から10分の不動寺で宿をとる。籠り堂で酒盛りした。3時30分出発」。雨と暗闇の中何度も道迷いして3時間で千燈山到着。水谷峠へ下山、道なきブッシュを苦戦して10時10分水分峠到着。

平成11年(1999)、9月号(第7号)、文殊山両子寺(佐藤秀二)「前回と同じメンバーは、テントを水谷峠近くに張り、恒例の宴会となる。5時出発、7時文殊山着」東南の文殊仙寺登山道に迷い込む(コンパス大事)。修正後、又間違(堂の下林道を下って)、成払地区に出た。成払は「小門山登山口だ」。652線を2.5kmで犬鼻峠に行ける。果たしてどうしたか、読者は興味津々だ。仕方なく軽トラ便乗。氏が車回収、全員車で犬鼻峠着。次の両子山は犬鼻峠から南へ2kmの町境直登である。(感想)この直登は60年前高

校登山で一度経験、大変なやぶだ。小竹さんよくぞ両子山山頂2時間頑張った。西さんも元気だ。とんでもない所に2度もでた。すごい経験ですね。このころは秀二君の全盛期でした。

令和3年8月18日 あんべ よしと
おわりに(筆者からのお断り)

阿南、河野への引継ぎで丁寧に説明しなかったのが、順番がちがった。

正しくは、第1回雪深峠前編(98号)、第2回雪深峠後編が99号。(99号分水嶺調査は第7回目です)。100号から正常。(安部)

こぎこぎ倶楽部の参加者募集

こぎこぎ倶楽部は支部協賛事業として支部役員集合の承認を受けている支部内の登山同好会です。互いに親睦を深めながら、あまり知られていない山や、あまり知られていないルートを辿ったり、また山頂だけを目指すのではなく尾根歩き、谷歩き、稜線縦走を楽しんだり、そのルートには道が有ったり無かったりと、いろんな山のバリエーションルートを楽しむとともに、そういう中で地図や地形の見方や、変化に富んだルートの歩き方などを学んでいく倶楽部です。会員はメールアドレス登録制で、山行計画が決まったらメールで連絡があり、その計画に参加したい人がその都度参加するシステムです。参加希望者は下記メールアドレスに「こぎこぎ倶楽部参加」と「名前」を書いたメールを送信してください。

jacyabu@ant.bbq.jp

shall we climb
(会員 14024 田所 歳朗)

クライミングしてみませんか?

北アルプスの奥穂高～西穂高の縦走は口バの耳とか馬の背とかジャングルムなどの難所が続く難易度が高いルートって言われています。去年、どんな所か確かめてきました。私の30分くらい前を先行していた人が滑落して亡くなりました。頻りに事故が起きるので難易度は高いのかも知れませんが、そこまで難しいかな?そう思えるようになったのは、もっと難しい所を普段から登っているからだと思えます。そこでお勧めするのがクライミングです。ロープを使う登山ですね。英語ではclimbです。登山道を登るの

は英語では hike です。

みなさんもそろそろレベルアップを検討しても良い頃ではないですか？本格的に道具を揃えるのは大変ですが、まずはカラビナとスリングとヘルメットを持って出掛けませんか？東九州支部でみんなの研修が開催されるので一緒に climb しましょう。

そういえば、個人山行の報告でしたね。

普段登る所はこんなところですか。どこにいるか見えるかな？



3. 支部からの報告

2023 年度（令和 5 年度）

日本山岳会東九州支部支部役員体制（案）

支部長 安東桂三

副支部長 下川智子 事業部

副支部長 鹿島正隆 山行部、遭難対策部担当

事務局長 阿南寿範 総務部、広報部担当

会計 平原健史 財務部担当

委員 中野 稔 総務部担当

委員 佐藤 彰 総務部担当

委員 井上高明 事業部担当

委員 佐藤裕之 事業部担当

委員 櫻井依里 新大分百山専任、山行部担当

委員 大渡崇夫 山行部担当

委員 丹生浩司 山行部担当

委員 河野達也 財務部担当

委員 矢上将大 遭難対策部担当

委員 笠井美世 広報部担当

監事 浅野総一

監事 神田美代子

顧問 加藤英彦

顧問 飯田勝之

顧問 甲斐良治

顧問 興田勝幸

注) 赤色は、今年度より新たに役員となられた方です。

東九州支部組織別体制（案）

各部	担当氏名
総務部	阿南寿範
	中野 稔
	笠井美世 佐藤 彰
財務部	平原健史
	河野達也
事業部	佐藤裕之
	井上高明
	下川智子
山行部	鹿島正隆
	丹生浩司
	大渡崇夫
	櫻井依里（新大分百山専任）
遭難対策部	鹿島正隆
	矢上将大
広報部	阿南寿範
	笠井美世
監事	浅野総一
	神田美代子
顧問	加藤英彦
	飯田勝之
	甲斐良治
	興田勝幸

支部会議報告

4月22日 日本山岳会東九州支部総会
（大分市コンパルホール 4F 視聴覚室）
31名出席、16名委任状 会員76名中47名の参加

5月12日（金）第1回役員会

6月21日（金）第2回役員会

2023年度支部役員体制を決定

7月27日（木）第3回役員会（開催予定）

支部ルーム開催状況

5月12日(金) 役員会と兼ねた。13名

6月2日(金) 5名

支部ルーム開催予定

7月7日(金) 予定

月例山行の案内

5月27日(土) 米神山(研修)

担当: 河野達也終了

6月11日(日) 御座ヶ岳(シニアトレッキング・研修)

笠井美世終了

7月9日(日) 求菩提山・犬ヶ岳→7月15日に変更

鹿島正隆まで申し込み macpapa@kcf.biglobe.ne.jp
(申込は2週間前まで)

8月5日(土) 九州5支部集会法華院山荘
8月6日(日) くじゅう山(安全を祈る集い)
9月17日(日) 貫山

鹿島正隆まで申し込み macpapa@kcf.biglobe.ne.jp
(申込は2週間前まで)

10月湧蓋山(シニアトレッキング) 担当: 下川
11月5日(日) 尾鈴山

鹿島正隆まで申し込み macpapa@kcf.biglobe.ne.jp
(申込は2週間前まで) 担当: 鹿島正隆

12月忘年登山
1月21日(日) 鞍岳
2月11日(日) 天山
3月黒岳
4月五葉岳

第10期登山入門教室

第1回講座 5/25

ホルトホール登山の基本など終了しました

第2回講座 5/28

鶴見岳受講生10名スタッフ10名終了しました(内容は、次号で)

第3回講座 9/13 ホルトホール予定

(以下、省略)

2023年度支部研修

小表山(月例山行と兼ねる)

2023/4/1(土) 終了(内容は本号参照)

米神山(月例山行と兼ねる)

2023/5/27(土) 終了(内容は、次号で)

御座ヶ岳(月例山行と兼ねる)

2023/6/11(日) 終了(内容は、次号で)

西叡山の山麓(登山講習会と兼ねる)

2023/7/1(日) 天候不良により延期

石鎚神社の岩(登山講習会と兼ねる)

2023/9/2(土)

皿内城山

2023/10/1(日)

アイゼンワーク(登山講習会と兼ねる)

2023/11/12(土)

問い合わせ安東まで(090-5727-9472)

2023年度登山講習会

7月1日(土) 読図(基礎編)

西叡山の山麓(豊後高田市) 天候不良により延期

8月19日(土) 沢登り(実践編)

神原川本谷あるいは小鳥谷(豊後竹田市)

9月2日(土) クライミング(基礎編)

石鎚神社の岩(日出町)

11月12日(土) アイゼンワーク(基礎編)

恵比須岩(別府市) あるいは高崎山(大分市)

2024年1月6日(土)~8(祭) 積雪期登山(基礎編)

大万木山(島根県飯南町)

問い合わせ安東まで(090-5727-9472)

講習費が必要です。一般の方も募集しています。

九州5支部集会(支部懇談会)

8/5九州5支部集会(法華院温泉山荘)

事前にメールで募集案内送っています。下川副支部長に申し込んでください。支部長より、『ゲストの松田宏也さんは、貴重な体験をしています。お話は、皆さんの将来の登山に良い指針を与えるでしょう。また、東九州支部会員以外に多くの友人を見つける機会です。ぜひ参加を』

第14回山の安全を祈る集い

8/6 慰霊碑前(九重山御池の慰霊碑のある丘) 11時各自にて集合

JAC本部

4/12本部へ東九州支部会計データ作成送付阿南

5/14本部へ東九州支部の活動報告、活動計画修正文、支部活動一覧表作成送付安東

6/23本部へ会報『山岳』第百十八年、2023年版「令和4年度東九州支部の活動報告」原稿作成送付安東

2023ふるさとの山に登ろう in 九重町『崩平山』

8/11(祭日)朝日台駐車場9時30分より受付登山開始
10時15分

問い合わせ大分県山岳連盟原勇人(090-4341-9209)

大分県山岳連盟のブログ、参照ください。

当支部でも、山の日登山のスタッフ募集しています。後日、安東が、お願いします。

編集後記

5月8日から新型コロナウイルスの感染症法上の分類が季節性インフルエンザと同じ「5類感染症」に引き下げられることになり、3年以上に及んだコロナ禍における社会は元の日常へと大きく舵を切ることになりました。

登山の関係で、新型コロナの影響を最も受けたのは山小屋ではなかったかと思います。休業・宿泊者の制限・感染防止対策等、経営に深刻な影響を及ぼしたであろうことは想像に難くありません。登山者として今後は出来る範囲内で応援をしていきたいと思っています。

しかしながら、シーズン中の山小屋は、寝るどころか横になるスペースもない場合がある中、コロナにより、手足を伸ばして横になることができたことは非常に有難かったというのも本音です。

コロナ前から手足を伸ばして寝ることができるのであれば、倍の料金でも良いと常々思っていました。今年はどうなるか一番の関心事です。

TK

公益社団法人日本山岳会東九州支部 東九州支部報 第101号

2023年(令和5年)4月25日発行

発行者 安東桂三
編集者 河野達也
印刷所 (株)エデンメディアワークス
発行所 事務局
〒870-1113 大分市中判田15-55 阿南方
TEL・FAX 097-597-7120
E-mail beca5844@oct-net.ne.jp



山溪 1968年創業の山溪があなたのアウトドアライフをサポートします。

山道具の110番開設中!

靴が合っていないのか、登山に行く度足が痛くなる…。リュックサックが肩にくい込む。テントが雨漏りする。道具の使い方がわからない…等々、弊社ご購入品にかかわらずご相談に応じます。

山溪 西日本最大級の品揃え! since 1968 登山・キャンプ専門店 大分市生石1-3-1

TEL 537-3333 FAX 537-3388

- 西大分「交釜」前高岡団地入り口
- JR西大分駅より歩いて6分
- 10時~19時30分 ●火曜定休日